



院長のご近所探訪

～墨田区両国「井筒部屋」編～

今回は墨田区両国にある「井筒部屋」をお訪ねしました。

井筒部屋は、元関協の逆鉾関が1994年に14代井筒を襲名して井筒部屋を継承しました。

現在は、横綱・鶴竜力三郎を筆頭に少数精鋭の力士が日々、猛稽古を展開しています。

また、近辺には両国国技館（相撲博物館）や明暦の大火の犠牲者の冥福を祈って建立された回向院など名所古刹が多くあり、古地図巡りの人々等で賑わっています。

医療福祉連携室この一年

医療福祉連携室執務を取って1年を迎えようとしています。

今年仕事の中心となったのは、「介護予防」と「退院支援」です。

「介護予防」はH18年第3期介護保険事業計画から導入された概念です。当時高齢者をチェックリストでスクリーニングし、要介護状態予備群と思われる高齢者に、短期、特に運動を中心として介入をするという方法論でした。目標高齢者人口の5%に対して平成18年度が0.2%、平成23年度でも0.8%と実績は低調でした。それから9年経った第6期からやっと方向転換し新しい介護予防事業が始まっています。そのお手伝いとして地域リハビリテーション推進広域派遣アドバイザー設置事業を受託し活動しています。H27年度版地域包括ケアの鉢植え図では「介護予防」は葉の部分から土へと変わり、「介護予防」が特殊なサービスではなく、生活支援と一体的になり、市民誰もが主体として取り組む内容として示されています。これを受け、障害に対して対応して来たりハビリ病院として「介護予防」とは誰もが健康感を持って生活できるよう支援することだと考えています。治癒困難な慢性疾患や、高齢も障害ととらえるなら、すべての疾患コントロールに当てはまると思います。また、介護予防はフレイル対策でもあります。フレイルに対して、医療的問題の整理、

運動指導、お金や介護者などの社会的問題の解決、栄養管理で予防効果があったとの報告もあり、リハビリ病院として運動指導はもちろんですが、他の点についてもいろいろな関与をしなければならないと考えています。

もう一つの重点項目は「退院支援」でした。当院の退院後状況調査を踏まえ、以前より入院療養の質と退院指導の問題点を地域リハ科として対応を検討してきました。そのひとつが墨田区在宅リハサポート医制度です。地域包括ケア構築の本丸は医療介護連携であることは間違いありません。その連携が行われる現場のひとつがまさに退院支援と考えております。こちらは症例を重ねてリハビリ病院ならではの形を追求していきたいと思っています。

いずれもキーワードは“自律”です。哲学者ロナルド・ドゥワオーキンに「どのような限界や辛苦にぶつかったとしても、人は自律を保持しようとする—自由である—自分の人生の作者になるためである。これが人間であることの真髄である。」という言葉があります。予防も、慢性疾患を生き抜くことも、主体は本人自身です。自ら考え自分自身の主治医のように情報を持ち、スキルを学び、自信が持てるよう支援しなければなりません。複雑な現実の問題に対して、多くの職種の多層的な関わりのなかに実行可能で継続性のある答えが見つかるものと思っています。

医療福祉連携室長 堀田富士子



放射線科の紹介

放射線科 豊田 耕平

放射線部門へ来られる患者さんは小さいお子様から白寿を超えてまでと様々です。リウマチ、脊椎疾患、交通外傷、高次脳障害、脳卒中などリハビリを応援しながら患者さんの言葉に耳を傾け、苦痛を少なくするよう日々創意工夫しながら撮影しております。

他ではあまり行われていないfMRI、嚥下造影といった特殊な検査も行っております。

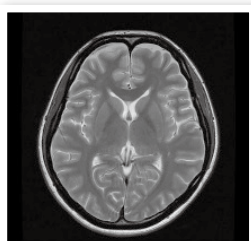
導入機器としては、フィルムレス運用PACS、一般撮影装置（FPD、CR）、デジタル式X線TVシステム（FPD）、CT撮影装置（32列）、骨密度測定装置（DEXA法）、MRI撮影装置（3T）、外科用X線テレビ装置、回診用X線撮影装置2台、ワークステーション2台です。



GE 社製 3T Discovery



MRA



頭部 MRI

すこしMRIのご紹介。

MRI検査は放射線を使用せずに、磁石と電磁波の力によって人体の様々な断面を撮像し、体内を診断できる画像診断装置です。検査中は工事現場のような大きな音がしますが、人体を傷つけるような影響はありませんので、安心して受診してください。造影剤を使用せずに脳の血管を撮影することができます（MRA）。

ただ、動きに非常に弱い検査のため、体を動かさない制約があります。検査時間は30分ほどかかります。

当院に導入されているMRIは3T（3テスラ）でより高分解能な画像を撮影することが可能です。

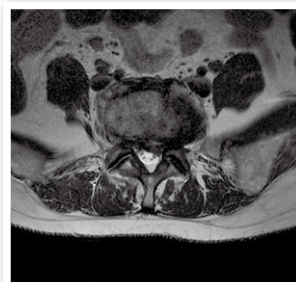
地域連携（MRI、CT、骨塩定量）も行っております。

詳しくは

（東京都リハビリテーション病院 放射線受付）
03-3616-8600（代表）（内線260）



腰椎 MRI



膝関節 MRI



リハビリ工学室



リハビリ工学士 鎬木 悠治

リハビリテーション工学室では、医師や療法士の方が実現したい研究のお手伝いや相談を主に行っています。具体的には、脳卒中患者さんを対象としたBMI（ブレイン・マシーン・インタフェース）によるリハビリシステムの構築・実施・解析、下肢片麻痺患者さんの歩行解析プログラムの作成、患者情報のデータベース管理システムの開発など多岐に渡って活動を行っています。今回は、私たちが長年行っているBMIリハビリテーションの紹介をさせていただきます。

私たちが新藤先生主導のもと行っているBMIリハビリテーション研究は、慶應義塾大学やその他病院と連携し、重度片麻痺脳卒中患者さんの麻痺手の運動機能回復を目的とした研究の一環で行われているものです。

BMIとは脳に電極を張って脳から電気信号を読み取り、機械を動かす技術の総称で、BMIリハビリはこの技術を応用し、手が動かない患者さんに手を動かすイメージをもらい、正しいイメージができた時に手に装着している装具をモーターで動かし、手を動かすリハビリのことを言います。

このリハビリを繰り返すことで、最初は機械の力で動いていた手が、次第に患者さんが自身の力で手が動かせ

るようになっていきます。

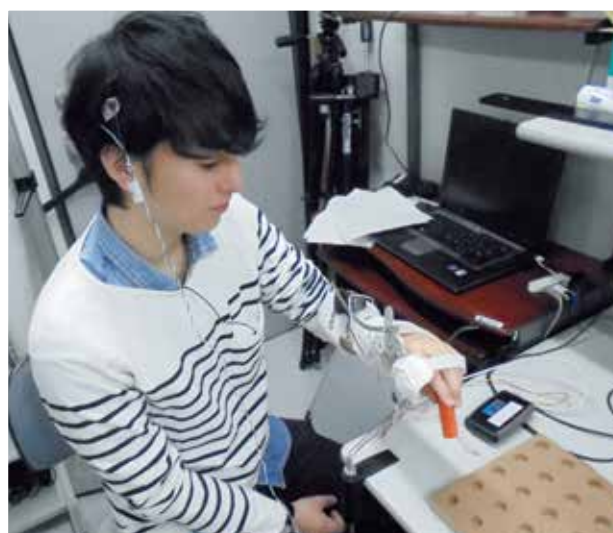
現在、当病院で私たちは、このBMIリハビリを行うことで実際に脳がどのように変化するかについての研究を行っています。患者さんの協力のもと、BMIリハビリの介入前後でMRIを撮像し、脳のどの部位が、どのように、例えば形や血流量が、変化するかということ調べております。

この研究はBMIリハビリの回復のメカニズムを知ることにつながり、メカニズムを解明することで、異なる症状や重症度を持った脳卒中の患者さんに対し、より個人にあったリハビリテーションを提案できる可能性があります。

紹介させて頂いたように、私たちにはシステム開発やデータ解析などの技術力があります。しかしその技術を生かすには、実際に日々患者さんと触れ合っている医師や療法士の方から、患者さんにとって何が必要なのかといったニーズを聞く必要があります。お互いの強みを生かしあって、一人でも多くの患者さんたちがより快適な生活を送れるように、多職種の皆さんと共に取り組んで行きたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。



リハビリ工学士スタッフ



BMI リハビリの様子

ご近所ネットワーク

～梅若橋コミュニティ会館の紹介～

1. 梅若橋コミュニティ会館の歴史

梅若橋コミュニティ会館は、昭和63年に東京都リハビリテーション病院様の隣に開館いたしました。区民のみならず、みなさまの教養、文化向上を図るための図書室や幼児・保護者向け事業、児童の遊び場所としての児童室、町会活動・サークル活動の場として地域集会室が設置されている複合施設です。

平成28年4月より指定管理者「梅若橋あすのすみだ」として株式会社図書館流通センター（TRC）、株式会社小学館集英社プロダクション（SHOPRO）、TRCファシリティーズ株式会社（TRCF）の3社共同事業体が管理運営業務を行っています。

2. 運営方針

みんなが「知り」「つながり」「行動する」拠点へ

図書室 「生涯学習の拠点としての情報センター機能を保ち、みなさまの課題解決を支援するとともに、訪れるすべての利用者に寄り添ったやさしい図書室運営」

児童室 「安全・安心で自発的な遊びや絆を生み出す空間のもと、生きる力・生きぬく力を持ち2つのそうぞう力（想像・創造）を持つこどもたちに」

3. 施設概要

当館施設として、1階に墨田区図書館としての図書室、2階・1階体育室に児童の遊び場としての児童室、また墨田区地域集会所として和室・多目的室・料理室が併設しています。

4. 各施設案内

図書室はさまざまな書籍・雑誌・CD・DVDなど幅広い内容の資料を取り揃え、約8万冊を所蔵しています。墨田区に在住・在勤・在学の方、隣接区に在住の方、また、東京リハビリテーション病院に入院されている方にも図書利用カードを発行しています。是非ご利用ください。

児童室は0歳乳幼児から高校生までが利用できる施設です。1階に体育室、2階にはグループ室・音楽室・遊戯室（乳幼児室）があり、遊びによる子どもの成長支援と地域における子育て支援を行っています。土・日・祝日の午前中、1階体育室は「みんなの体育室」として一定時間ごとのグループ独占利用ができます。幼児親子、家族、友人などで利用可能です。大きな体育館を満喫してください。

地域集会所は、地域活動の場として気軽に利用できる有料施設です。サークル活動や会議・講習会・懇親会・料理教室など、さまざまなご利用がいただけます。

5. 終わりに

「地域住民のコミュニティの形成と発展」「教養と文化の向上」「児童の健全育成」の3つのコンセプトで地域の皆様に親しまれる施設運営に努めてまいります。

今後ともご支援ご愛顧の程、よろしくお願いいたします。



平成28年度 地域リハビリテーションセミナーの開催

日時：平成28年12月5日（月）18:30～20:30

会場：すみだ産業会館 会議室4

講師：米山 久美子 先生（認定在宅訪問栄養士）

（主催：区東部地域リハビリテーション支援センター*1）

当研修会は、区東部（墨田区・江東区・江戸川区）を中心としたリハビリ専門職と看護師を対象に、地域栄養サポート自由が丘 米山 久美子先生をお招きして、「在宅での栄養管理の実践」をテーマに開催いたしました。

当日は、46名に上る方々にご参加いただき、「管理栄養士の方の話を聞く機会がない為、とても良い機会になった」「栄養とリハビリはとてつなかりが深いと感じた」「栄養についてもっと勉強したい」といった多くの感想を頂戴しました。

アンケートでご要望の高かった『栄養』について、区東部地域リハビリテーション支援センターでは、平成29年4月13日（木）に、横浜市立大学附属 市民総合医療センター 若林 秀隆先生をお招きして、「地域でのリハビリテーション栄養」をテーマに研修会を開催する予定です。この研修会は、都内全域の医療・福祉・保健・介護・行政・関係機関職員を対象としておりますので、ご興味のある方はぜひご参加ください。

最後に、区東部地域リハビリテーション支援センターとして、地域の介護・福祉・保健・医療に従事される皆様へより良い研修会を開催し、地域リハビリテーションの普及・啓発に努力して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

*1 区東部地域リハビリテーション支援センターとは

東京都では、地域リハ提供体制の連携強化を目的として、二次保健医療圏ごとに地域リハビリテーション支援センターを指定しています。区東部（墨田区・江東区・江戸川区）では地域リハビリテーション支援センターの拠点として東京都リハビリテーション病院が指定され、地域における様々な形で実施されているリハビリテーション事業を支援するため、研修会など地域リハビリに関する各種事業を実施しています。



研修会の様子

区東部地域リハビリテーション支援センター 研修会 開催予定

① 地域でのリハビリテーション栄養

講師 横浜市立大学附属 市民総合医療センター 若林 秀隆 先生

対象者 都内の医療・福祉・保健・介護・行政・関係機関職員

日時 平成29年4月13日（木）19:00～20:30 会場 東京都医師会（2階講堂） 定員 200名 費用 無料

※参加には事前のお申し込みが必要です。定員を超えてしまい、ご受講できない場合のみ、その旨連絡いたします。

平成29年度 地域リハビリテーションセミナー 開催予定

対象者 区東部（墨田区・江東区・江戸川区）のリハビリ専門職・看護師

	日 程	時 間	会 場	費用	定員
第1回	平成29年 4月26日（水）	18:30～20:30	すみだ産業会館 会議室4	無料	65名
第2回	平成29年 5月15日（月）				
第3回	平成29年 5月29日（月）				
第4回	平成29年 6月12日（月）				
第5回	平成29年 6月26日（月）				
第6回	平成29年 7月10日（月）				
第7回	平成29年 7月31日（月）				

※参加には事前のお申し込みが必要です。開催日が近くなりましたら、関係施設様へのご案内をFAXにて通知いたします。今までFAXによる開催案内の通知がなく、ご参加希望される場合やお問い合わせがある場合は、区東部地域リハビリテーション支援センター事務局（TEL:03-3616-8600 内線376）担当 岡田までご連絡下さい。

おもしろ体験記



サバイディー！（ラオス語でこんにちは）

私は先日、（仕事とは全く関係ないのですが…）ラオスで象使いの免許を取得してきました。ラオスはタイとベトナムの間に位置する、人口約700万人の内陸国です。

当日は生憎の曇り空でしたが、世界遺産のルアンパバーンという街から車で1時間程すると、メコン川沿いにある象の村へ到着。私は半日コースに参加しました。

「進め」は「パイ」、「止まれ」は「ハウ」等、一通りのレクチャーを受けてから、1回目は象の背中にある木の椅子に乗って山道を練り歩き、2回目は象の背中に直接乗りました。象の頭にまばらに生えている、針金のように太い毛のチクチクとした感触は今でも忘れられません。

アップダウンのある山道を、象の背中に乗って進

んで行くのはとてもスリリングでした。登りは問題ないのですが、傾斜のきつい下りとなると、自分の身体が前方に倒れそうになることも。落馬ならぬ落象？により、職員である私が当院でリハビリのお世話になるのは何としても避けねば…と思い、落ちないよう必死に足を踏ん張っていた為、後日筋肉痛になってしまいました。

最後は、濁ったメコン川にそのままジャブジャブと入り、自分の腰まで浸かった状態で象の身体を洗いました。

はたしてこの免許証（？）がどこで有効なのかは定かではありませんが、可愛い象との貴重な体験ができたことに感謝しています。

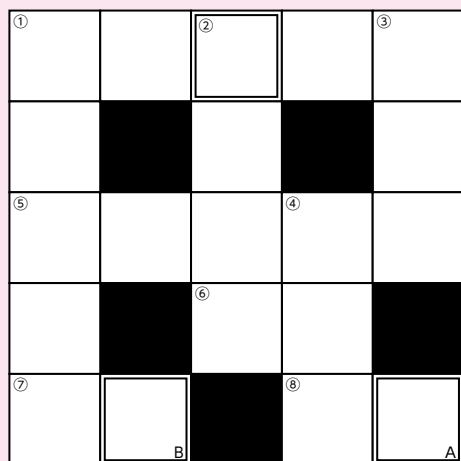
薬剤検査科 広江 智子

ほっとりハ



Vol.6

ヒントをもとにマス目を埋め、二重マスの文字をつなげてください



タテのかぎ

- ①簡単な回文の代表格とも言えますね
- ②海のように見える雲の上面
- ③「奥の細道」の始まりは〇〇は百代の…
- ④和田竜のデビュー小説は〇〇〇の城

ヨコのかぎ

- ①新入職員はこれ乗り越えてきました
- ⑤昔は「明治節」と呼ばれていました
- ⑥医学的にはウイルス性疣贅ゆうぜいといひます
- ⑦春・夏・秋・冬 日本の〇〇を愛でる
- ⑧子供の夜泣きに〇〇救命丸



答え：



前号の答え



多数のご応募ありがとうございました

【応募方法】 はがきに①答え ②郵便番号 ③住所 ④氏名 ⑤ご意見、ご感想をお書きのうえ、次の応募先へお送りください。正解者の中から抽選で10名様にQUOカードをプレゼントいたします。

【締 切】 平成29年5月1日（月） 当日消印有効
※正解は次号に掲載いたします

【応募先】 〒131-0034 東京都墨田区堤通2丁目14番1号
東京都リハビリテーション病院 ほっとりハ編集部係宛

診療部栄養科と リハビリテーション部言語療法・心理科を新設

当院の組織を平成29年4月1日から改正しました。

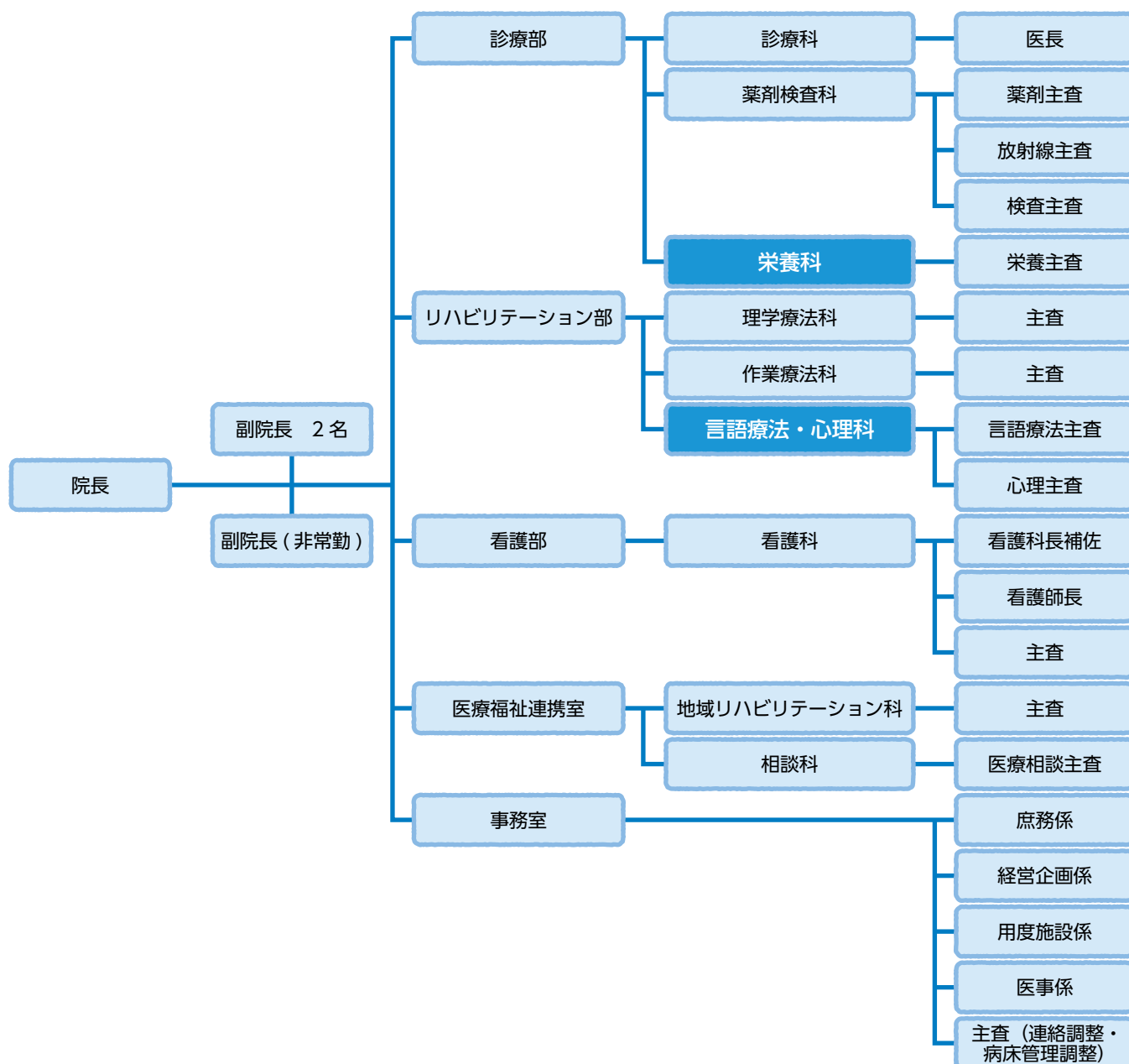
診療部では、栄養担当部門を薬剤検査科から分離し「栄養科」を新たに設置しました。当面、診療部長が栄養科長の業務を取扱います。

リハビリテーション部では、言語療法部門と心理部門をあわせて所掌する「言語療法・心理科」を新たに設置し、科長を配置しました。

また、病院全体の病床管理を適切に行うため、事務室主査の担当業務にこれを加えることとし、名称を主査（連絡調整・病床管理調整）と改めます。

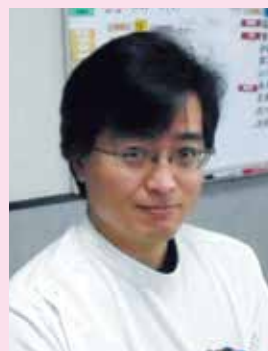
新たな病院の組織図（部・科・係）は以下のとおりです。

*組織図（平成29年4月1日改正）



墨田区の 地域リハビリテーション活動支援事業 訪問型サービスC事業

理学療法科 主査 平野 正仁



皆様、地域包括ケアシステムって聞いたことがありますか？「高齢化が進んだら日本の経済は破綻する。だから地域住民の支え合いの仕組みを作るんだ」なんて聞いたりすると思います。地域包括ケアシステムとは「町の人たちを支える仕組み。関わる病院施設、町内会、商店街、民生委員・社会福祉協議会などなどの組織が繋がること。専門家も一般市民の取り組みのすべて」といったところでしょうか。このシステムを構築する一端を担う事業を当院でも担っております。今年度、墨田区は区内のリハビリテーション職に、地域リハビリテーション活動事業*1を委託しました。当院からは理学療法科の伊藤と平野、作業療法科の大場、窪田、地域リハ科の古畑が事業に参加しています。また齋藤と平野は訪問型サービスC*2という事業にも参加しています。本稿ではこれらの事業について紹介します。

*1 地域リハビリテーション活動支援事業とは

地域ケア会議や住民たちが集うサロンやグループにリハ専門職を関与させ、地域における介護予防の取り組みを機能強化するという事業。高齢者支援総合センターと協力して、行っている。

*2 訪問型サービスC

要支援のの対象者にたいし、日常生活に支障のある生活行為を明らかにするため、リハ専門職が家庭訪問する。助言指導することにより、利用者の自立支援につなげるという事業。

病院でリハビリテーションを行っている、退院していった患者さんたちのその後のことを思うことがあります。リハ職としてケアプランに提案し、患者さんは家屋も改修し自宅に戻ります。その後どのような生活を営むのだろうか。住んでいる地域はどんな地域なのだろうか。こんな疑問を持ちながら、過ごしていました。

今回の事業を通して地域を歩き、いくつものサロンやグループにお邪魔して、健康に関する講話とか体操の指導を行いました。私たちのすぐ側の街にはいろいろな方々がいらっしゃいました。元気なおばあちゃんは体操のグループを掛け持ちして身体を鍛えているし、脳トレと体操の組み

合わせたモノなど自分よりお年寄りの方ができたりする、夕方になると銭湯に人が集う、団地にある婦人会での紙風船バレーでは風船が破裂するまでプレーするとかとか…。

生活すること、それを続けること、人とつながること。あたりまえだけど患者さんたちはそういった生活に戻っていく訳です。

私はサロンやグループの目の前の方々に関わりながら、地域を見つめてもっと知りたいと想いました。高齢者支援総合センターや、見守り相談室、民生委員、社会福祉協議会、地域にはいくつもの住民を守るネットワークが動いていました。地域には介護保険のサービスだけでなくそれ以外のサービスもたくさんありました。サロンやグループも場所によって多い少ないがありました。これらは誰かが作った街の資源(=宝)と言えらると思いました。

また高齢者支援総合センター(墨田区では包括支援センターをこう呼びます)と共に街のために何が出来るかを考えるようになりました。

私たちが為すことは、退院した患者さんにとって生き生きと生活できる街を作ることであるし、街そのものを元気にすることであると考えました。

実際に病院での臨床業務を行いながら、活動を行うため、まだ不十分だなと感じています。しかし地域に資する活動を通して得たモノは、同僚らに退院後の生活を見据えたりリハビリテーションを考えるための情報として、共有していけたらと考えております。当院は、2025年に向けて目指すべき方向性「総合的なリハビリテーション医療を実施するとともに、東京都における地域リハビリテーションや地域包括ケアシステムにおいても先駆的・中核的な取り組みを行うリハビリテーション専門病院となる」とうたっています。

実際墨田区での事業は都内でも先駆的な事例のようです。これからもじっくりと、細く長く地域に関わって、「都リハのリハさんなかなかやるね」なぞと、地域のかたがたにのっしやって頂けるよう、精進して参りたいと思います。

東京都リハビリテーション病院

ほっとリハ

平成29年4月1日(土)発行

東京都リハビリテーション病院 広報委員会

〒131-0034 東京都墨田区堤通2-14-1
TEL: 03-3616-8600 FAX: 03-3616-8705
<http://www.tokyo-reha.jp>

編集
後記

桜の花咲く4月、ご入学やご就職で新しい人生を歩まれる方々にお祝いを申し上げます。当院でも大勢の新入職員が誕生いたしました。期待と不安を持って入職をされた皆さんのご活躍を祈念すると共に、お祝いを申し上げます。

UD
FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。